

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ロバキッズひろば		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		2008年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		2008年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携を意識したチーム支援	<b>工夫していること</b> ST・OT・心理職員・療育保育士が定期的に情報共有 子どもの小さな変化も職員間で丁寧に共有 専門的視点を日々の保育に反映 <b>意識していること</b> 「専門職任せ」にせず、全職員で支える体制づくり 子どもの困り感の背景を多角的に捉えること 支援方針に一貫性を持たせること	職員一人ひとりの専門性の底上げ チーム全体としての支援力向上
2	安心できる環境づくり	<b>工夫していること</b> 育児担当制で特定の保育者との安定した関係を構築 年齢別クラス編成で発達に合った活動設定 見通しが持てる一日の流れを大切にしている <b>意識していること</b> 子どもが「安心して挑戦できる」環境づくり 成功体験を積み重ねられる活動設定 集団の中でも一人ひとりの気持ちを尊重すること	「交流」から「共に育つ」関係へ 地域の中で開かれた療育施設としての役割強化
3	家庭との連携を大切にする支援	<b>工夫していること</b> 施設内でのペアレントトレーニング実施 日々の丁寧なフィードバック 保育園との連携によるインクルーシブな取り組み <b>意識していること</b> 家庭と同じ方向を向いた支援 保護者の不安や悩みに寄り添う姿勢 子どもの成長を共に喜び合う関係づくり	「支援される存在」から「自ら育つ存在」へ 自信と自己肯定感を育む療育

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運営面・設備面での課題	施設のスペースが限られており、活動内容に制約が出る場合がある  送迎を行っていないため、保護者による送迎が必須	来年度は広い敷地に移転する予定
2	デジタル化への対応	ICTやデジタルツールの活用に不安を感じる職員もいる	段階的なICT研修の実施  得意な職員によるサポート体制  業務効率化と支援の質向上の両立を目指す
3	支援体制のマンパワー依存	専門性が高く、個性の強い支援であるため、職員の力量に左右されやすい  柔軟な対応が求められ、職員の負担が大きくなりやすい  支援のシステム化・標準化が図りにくい	支援マニュアルや事例共有の仕組みづくり  チームで支える体制の強化  業務の整理と優先順位の明確化